

## 税金に隠れた青春

陸別町立陸別中学校 三年 多胡 桃心

「青春」私はこの言葉が大好きです。しかし、この「青春」を謳歌するためには、学校の中の設備が整ってなければなりません。机、椅子、黒板、タブレットなど。そこで、私は一つ疑問が頭に浮かびました。これらの学校用品を揃えるためには、どこからお金が出ているのでしょうか。

インターネットを使って、学校用品の出どころを調べてみました。その結果、これらのお金は、親が一生懸命働いている中で支払っている税金や、私達がお菓子やおもちなどを買った時にかかっている税金などによって賄われていることがわかりました。では、私に通っている中学校では、年間どのくらいの税金が使われているのでしょうか。

私が住んでいる町のホームページで「歳入」と「教育費」を調べてみました。町の歳入は五十五億九千万円で、教育費はその内の三億六千万円が使われていました。町の歳入の十五パーセントを占めていることがわかり、こんなにも教育費に当てられていることに、私はとても驚きました。

教育費は、町民が支払う税金の十五パーセントで賄われていて、その中には、私の親が町民として税金を納めているものも含まれています。私が教育を受けるために、親が頑張って仕事をして、納税者の一人として税金を支払い、間接的に支えてくれているということがわかりました。また、税理士さんが行ってくれた租税教室の中で、「なぜ税金が大切なのか?」「もし税金がなくなったらどうなるのか」など、税金の大切さについて、たくさんのお話を学ぶことができました。もともと、私は「税金なんてなくてもよい」と思っていました。しかし、学校の設備について調べたことや租税教室を通して、税金は私達の暮らしに欠かせない大切なものだと、税金に対するイメージが大きく変わりました。

学校で「青春」を謳歌するために、親が一生懸命働いて税金を払ってくれていることがわかったので、日々の生活の中で、親に感謝しながら生活したいと思います。また、楽しく学校に通えていることを当たり前に思わずに、普段の学校の授業を受けることが大切で、タブレットや黒板、椅子、机は大切に使用したいと改めて思いました。

税金は、私達の暮らしを豊かにしてくれているものなので、身近な消費税などはありがたく支払い、自らの「青春」を謳歌したいと思います。